



# 大学入試センター試験 地理Bの問題からみえること

栃木県立宇都宮女子高等学校 大嶋 誠

## 1 はじめに

大学受験に関して、大学入試センター試験の役割は大きくなってきており、生徒・保護者・教員の関心も高い。私は地理の教員として以前から、出題される地域によっては受験生に有利、不利が生じないか関心を持っていた。常識的に考えて土地勘がある地元の地域が出題されれば有利にはたらくと思うが、本当なのであろうか。興味の持てるテーマである。また、2003年度のセンター試験 地理Bの第5問で沖縄県石垣島の問題が出題された。海がなく、当時修学旅行で沖縄に行く機会の少なかった本県の生徒にとって、沖縄の問題はかなり不利にはたらくのではないかと考え、さっそくベネッセの資料からセンター試験の集計結果（2008年の集計数は406,586人で大学入試センター試験出願者に対する割合は74.8%にあたる）を分析することにした。

## 2 出題地域による有利性

前述の沖縄県の問題であるが、とくに本県の生徒にとって不利だと感じた問題が、2003年度第5問の問4である。サンゴ礁が形成される場所と海岸線の関係を問うものであり、沖縄の生徒にとっては常識である。私の分析作業は、この年の沖縄県の受験生の地理B平均点を調べることから始まった。まず、この年の沖縄県の平均点58.1から全国平均の55.0を引き、過去9年間の沖縄県と全国平均との差の平均値（-0.1点）との差を計算した。その結果、他の年とは大きく異なり+3.2点で全国1位であった。この年に関しては、かなり沖縄県の受験生には有利であったと考えられる。ちなみに、最も不利な結果に終わったのは、長野県の-0.9点であった。また、地理Bの問題には毎年地形図の読み取り問題が出題されているが、該当する地域の生徒への有利性に関して前述の方法で検証した。次の表1を見てもらいたいが、入手可能な都道府県レベルでも、ある程度の有利性は検証できた。他の要素として、都道府県の面積も正答率にある程度影響していると思われる。面積の狭い県では生活圏も共通であるが、広大

表1 地形図の問題一覧

	2001	2002	2003	2004	2006	2007	2008
出題都市	天童	釧路	石垣	松本	函館	八戸	広島
有利性	0.0	2.3	3.2	0.6	-0.5	1.7	1.0
県順位	山形県 25位	北海道 10位	沖縄県 1位	長野県 4位	北海道 39位	青森県 4位	広島県 7位

\*2000年は外国、05年はなし。

### 2003年度 センター試験 地理B 第5問 問4

問4 次の図3中のP～Rのいずれかは、石垣島の海面付近でサンゴ礁がみられる場所を示している。また、下のア・イのいずれかは、近年日本で懸念されているサンゴを死滅させる原因を挙げたものである。海面付近でサンゴ礁がみられる場所とサンゴを死滅させる原因との組合せとして最も適当なものを、以下の①～⑥のうちから一つ選べ。

32



図3

- ア 富栄養化による赤潮の発生
- イ 陸地の開発による土砂の流入

	①	②	③	④	⑤	⑥
場所	P	P	Q	Q	R	R
原因	ア	イ	ア	イ	ア	イ

答えは④

な面積を有する北海道などでは出題地域の生活圏はごく一部に過ぎず、このことが順位の低迷に結びついていると推察される。それからこの検証法では、都道府県レベルでの成績伸び率の影響も若干ではあるが受けてしまう。もし市町村レベルで調査ができれば明らかな有利性が認められると思う。

結果的に地域による有利性を享受できるのはごく一部の生徒なのであまり気にすることはないと思うが、出題地域による有利・不利をなくすためには、居住地域と異なる環境（内陸部と沿海部、東北日本と西南日本など）に関する情報を生徒に与える必要があると思う。

### 3 各都道府県の平均点

私は出題された地域の有利性を調べるために各都道府県のデータを調査したわけだが、各都道府県の平均点の推移に関心を持った。右に2008年度の平均点の上位府県と下位の県における全国平均との推移のグラフを示した。これによると大阪圏と東京圏の都道府県を中心に顕著な成績をあげており、全体的にその成績は上昇傾向にある。近畿地方の府県の成績には目を見張るものがあるが、とくに全国首位を維持する奈良県は地理だけでなく多くの教科平均点でも首位を維持している。その背景としていくつかの点があげられる。受験者における私立有名進学校の割合の高さや各地域の公立高間の競争意識、教育に関心の高い住民の増加などだが、地理に関しては古都奈良における日本史受験生の多さによる地理受験生の少数精鋭化などの情報も得た。これ以外にも多くの要素があると思われる。

### 4 まとめ

今回、センター試験で出題された地域の有利性について調べたわけだが、データ収集の過程で各都道府県の平均点の動向についても関心を持ち、調査を行った。過去14年間調査し、成績上位都道府県は上昇傾向、下位県は下降傾向を示す都道府県が多く、以前に比べ二極分化している現状が浮かび上がってきた。成績に影響を与える要因について、多くの指標（各教科の成績・都道府県民所得・大学進学率など）との相関も調べたが、各教科に関しては英語との相関が最も強く、また所得や進学率についても、ある程度の相関はみられたが、地理の平均点に関して直接の影響力はなかった。今回はあくまで問題提起として提示した次第である。

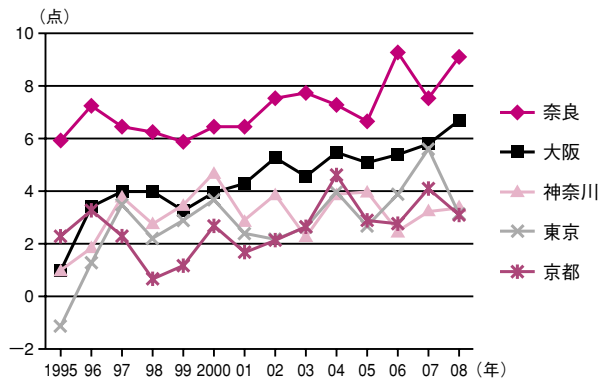


図1 2008年度上位5都府県の全国平均点との差の推移

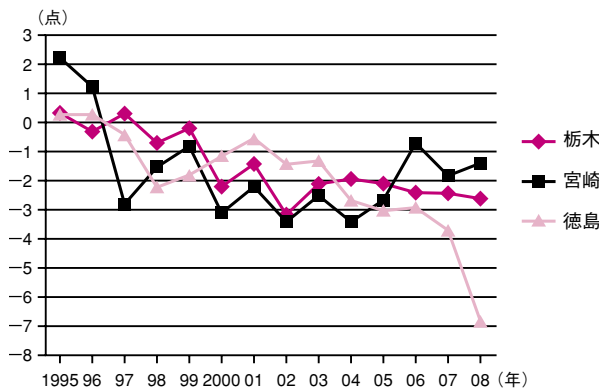


図2 2008年度下位3県の全国平均点との差の推移

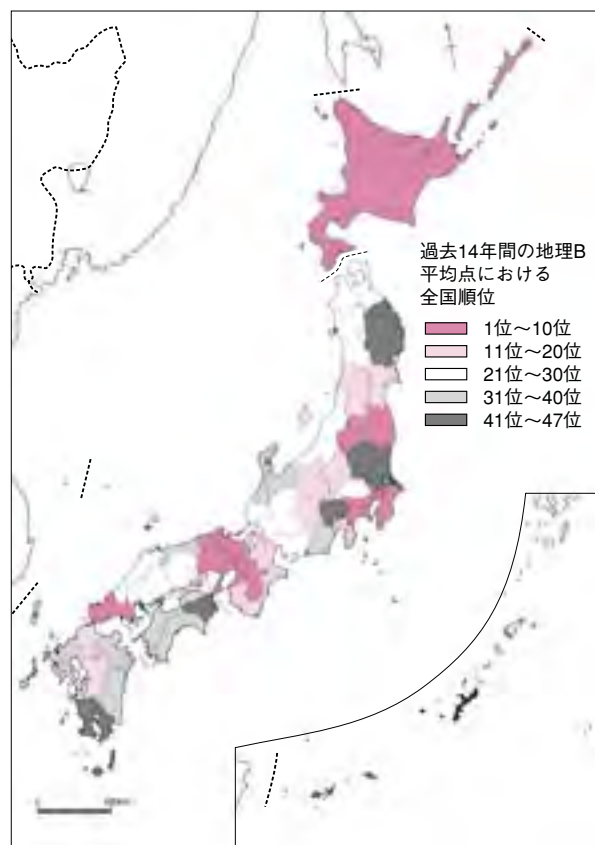


図3 過去14年間の地理B平均点における全国順位